****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 349 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2013.04.04（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1,109 部**********

□　目　次　□----------

＜巻頭言＞　うわさは智者でとまる――風評被害を考える　益永八尋
＜山崎農業研究所　第 144 回定例（現地）研究会　速報（要旨）＞
テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて
2. ワークショップ解題　　(4)風評被害：そのメカニズムと対策
　……家常高氏　山崎農研
＜編集後記＞　3.11 後を生きる
　　――小出裕章・明峯哲夫・中島紀一・菅野正寿著
　　『原発事故と農の復興―避難すればそれですむのか？！』
　　（コモンズ刊）

＜巻頭言＞　うわさは智者でとまる――風評被害を考える

WEB 利用者の増大に伴い、さまざまな情報が氾濫している。仕事に役立つ情報や仕事に関係しない話題、さらには他人や団体・組織を誹謗・中傷する情報など、実に多様だ。“○○の風評被害”で Google 検索すれば、100 万件以上がヒットする。Yahoo で検索しても同様の結果がでる。

東日本大地震と福島第 1 原発事故に伴う風評被害はどのような産業分野が多いか調べてみた。食の安心と安全に関わる産業（農業・食品）が一番多い。それに続くのが観光、不動産業だ。これら以外の産業や企業でもさまざまな風評被害がある。

検索された件数についての解釈や捉え方は読者によってそれぞれ違ったものになるだろうが、いずれにしても、“風評被害”に多くの人が関心を持っていることはたしかだ。

現代の風評被害にはWEBやマスコミによる被害の発生や被害の拡大が大きく関与している。WEB利用者やマスコミ関係者は、自らが風評被害の発生者になることや、風評被害を拡散するようなことが無いよう、細心の注意を払わなくてはならない。

自然災害と同じように、風評被害にあうことは避けられないだけでなく、無くなることもない。だが、風評被害を軽減することは可能である。まずは、風評被害は身近にあること、誰でも風評被害の被害者になったり加害者や拡散者になったりする可能性があることを自覚する必要があるだろう。

「うわさは智者でとまる」という言葉がある。風評被害を拡散させないためには、皆が智者になり、うわさを縮小させるように行動することだ。そうすれば、「ひとの噂も70日」が「ひとの噂も5日」とか「ひとの噂も1週間」というように変わるのではないか。

なお、“風評被害”の実例や風評被害対策は書籍やWEBに紹介されているので詳細な内容を紹介するのは差し控えるが、文献としては、関谷直也著『風評被害ーそのメカニズムを考える』（光文社新書、2011年）、永峰栄太郎・河岸宏和 共著『日本農業は"風評被害"に負けない』（アスキー新書、2011年）がある。一読をすすめたい。

益永八尋
山崎農業研究所会員
yamazaki@yamazaki-i.org

＜山崎農業研究所　第144回定例（現地）研究会　速報（要旨）＞
テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて
期　日：2013年1月19日（土）
場　所：JA新ふくしま飯坂南支所　会議室
1. 基調報告　ベラルーシ現地視察を踏まえて
　……今野文治氏　JA新ふくしま農業振興対策室
2. ワークショップ解題＝山崎農研
　(1)住民参加型復旧・復興の方法……小泉浩郎氏
　(2)放射性物質：汚染・除染の考え方……渡邊博氏

(3)産地再興：歴史に学ぶ……石川秀勇氏
(4)風評被害：そのメカニズムと対策……家常高氏

---

2. ワークショップ解題　(4)風評被害：そのメカニズムと対策
……家常高氏　山崎農研

情報の真偽を見抜く力を養うこと。風評に被害は甚大。事実を大げさに曲げたもの、事実でない情報が市場に大きな被害を与えている。風評（ R ）を表わすのに、その重要度（ i ）と曖昧さ（ a ）との積として、R＝I×a で表わす人がいる。これによれば、a が小さければ、真実に近ければ風評は伝わりにくい。

風評被害の特徴を捉えた表現に「ある社会問題（事件・事故・環境汚染・災害・不況）が報道されることによって、本来「安全」とされるもの（食品・商品・土地・企業）を人々が危険視し、消費、観光、取引をやめることによって引き起こされる経済的被害のこと」（関谷 2011）としたものがある。

被害を防ぐための対策として、次のようなことが急がれる。平時からホームページ（HP）の活用、マスコミへの情報提供体制の構築。事件発生後には正確な災害状況を確認して流す。HP、テレビ、ラジオ、新聞などマスコミに正確な情報を提供して、社会に現状を周知してもらう。

更に「信頼を獲得できる情報」提供として、(1)農地の放射線量マップ作成とゾーニング、(2)地域・品目別放射線物質の農産物への移行率の把握を行い、生産戦略を組み立てる、(3)出荷前の検査（国・県によるモニタリング検査）を行う、(4)消費者自身が測定できる体制を作る、等を実行することである。

販売に当たって、いちばん気にすべきことは、消費者が安全・安心を重視していることへの PR である。日本農業新聞（2013.1.8）によれば、消費者トレンドとして努力の甲斐あって、キーワードとして「安全・安心」と答えた数値は低下する傾向にある。これは被害への対策が一定の効果を示したものであろう。しかし、現在でも最も高い要望には変わりはない。

その中で、検査結果の公表と情報提供方法の充実が望まれる。風評被害が依然としてあり、解消したと答える人は殆どいない。風評被害の根絶には長い時間が必要である。そのための努力が欠かせない。

（文責：石川・安富）

＜編集後記＞　3.11 後を生きる
——小出裕章・明峯哲夫・中島紀一・菅野正寿著
『原発事故と農の復興—避難すればそれですむのか？！』
（コモンズ刊）

本書は 1 月 20 日に都内で開かれた公開討論会「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」をベースにとりまとめたものだ。100 ページ強と見た目は軽い。しかし、その内容はきわめてヘビーである。

反原発論者の小出裕章さんは、放射能汚染の実状をふまえれば国はより広い地域での避難、退去に取り組むべきだと言う。しかしその可能性はきわめて低い。そうであるならば、そこに暮らし続ける子どもたちの被爆を少しでも減らすとともに、農民たちを支え、第一次産業を守るべきである。だが、高汚染地域で子どもが生きることはやはり認めることができない…

それに対して農業・農村の側の 3 人の論者（明峯哲夫・中島紀一・菅野正寿）は、農業・農村の復興は、その土地にとどまり続けるなかでしかありえないし、この 2 年の経験をふまえればその可能性はあると言う。

「危険だから、逃げよ」という立場と、「危険でないから、逃げる必要はない」という立場の対立は、原発事故後さまざまな場面でみられた。だが、「危険かもしれないけれども、逃げるわけにはいかない」という、第三の立場、第三の道を選んだ人が現実には圧倒的に多いのである。

「逃げられない人によって、日本の社会は支えられている」と明峯哲夫さんは言う。議論すべきは、そういう人たちをどう支えるか、彼らを支えることが自分の生き方にとってどんな意味をもつかだと。そして中島紀一さんは「人間はその土地に生きることにおいて人間」であり、だから「逃げるわけにはいかない」というのは第三の道でなく第一の道だとし、二本松市で農を営む菅野正寿さんは放射能のリスクもあるが、リスクにはほかにもたくさんあって大都市部で暮らすほうが実はリスクが高いのではないかと言う。

本書を読みすすめながら何度も「覚悟」という言葉が頭をよぎった。しかし、

中島さんの言う「人間はその土地に生きることにおいて人間」をふまえれば、覚悟は当然ということになる。逆に、ここが駄目ならあちら、これが駄目ならあれ、というような発想それ自体が、科学の暴走を許し、自然をおかしくし、もっといえば原発事故を引き起こしたたのではないかとも思う。

この本は東日本大震災から丸 2 年が経過した 2013 年 3 月 11 日に発行された。最初に書いたように内容はきわめてヘビーである。だが、3.11 後を生きるというのは、こういう本と向き合うということでもあるのだ。

小出裕章・明峯哲夫・中島紀一・菅野正寿著
『原発事故と農の復興—避難すればそれですむのか？！』
コモンズ刊、A5 判、112 ページ
本体価：1100 円＋税
発行日：2013 年 3 月
ISBN-13: 978-4-86187-103-0

2013 年 04 月 04 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』

http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

http://www.rircl.jp/shiryo.htm

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

http://yamazaki-i.org/

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

http://yamazaki-i.org/

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1 回 1 テーマ、10 行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回　350 号の締め切りは 04 月 15 日、発行は 04 月 18 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 349 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2013.04.04（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********